

市立加西病院について



井上 芳弘 議員
(日本共産党)

の状況が続いていると考えています。

問 そのように対応されているとしても、感染があっても不思議ではなく、最初の感染からの広がりを防止する訓練や、スタッフ内での意識の共有は当然では。

答 感染症病床は現在 14 床運営していますが、6 床は別棟、8 床は閉鎖した病床を使用しています。感染についてしっかりと教育を受けた者が限定的に対応していますので、いたずらに恐れていないというのが病院の考え方です。

問 多くの病院でスタッフ不足の事例も報告されています。北播地域を一手に引き受けている現状だと思いますが、医療従事者の体制は十分でしょうか。

答 感染症病床が 6 床までの段階は、軽症の方、無症状か微熱程度の方を受け入れてきました。症状が悪化する予兆を見出したら、すぐに県立加古川医療センターに送る体制を執ってきました。追加の 8 床については、兵庫県要請により、中等症の 1 という酸素の吸入をしなければならぬ方も可能な限り対応していますが、ICU や多くの看護師を必要とする重症の方はなく、いたずらに心配することはありません。

■その他の質問項目

- ・子育て・暮らし、中小業者支援について
- ・就農支援について
- ・市道の整備、安全対策について
- ・コロナ感染症の拡大と対策について

問 新型コロナウイルスのクラスターが全国で最も発生しているのは病院です。令和 2 年の春以降長期にわたって新型コロナウイルスへの対応をされています。感染防止に相当努力されてきたと思いますが、現状について。

答 令和 2 年 4 月以降、医療従事者への感染はありません。スタンダードプレコーションといいますが、感染予防と考えられることを愚直に実践することを病院の中でやっており、結果として今

ICT を活用したまちづくりについて



下江 一将 議員
(21 政会・加西ともて育つ会)

期間で捕獲することが可能です。

問 今後、導入の対象となる地域と取組の方向性は。

答 獣害被害に強い集落モデル作りを推進するため、住民主体の獣害被害対策モデル地区の設置を検討しています。モデル地区候補として取り組んでいる集落では、兵庫県森林動物センターや兵庫県立大学の獣害対策チームの支援を受け、研修会の開催や集落内被害アンケートの実施、現地研修会による個別の被害発生の確認、金網柵の点検、有害鳥獣の発生、生息状況のセンサーカメラ設置による把握、ワークショップ等を通じた問題点の可視化等を進めています。今後はモデル地区の拡大も目指しています。

問 加西市の業務におけるペーパーレス化について。

答 従前より環境負荷の軽減や行財政改革の一環として、紙省力化に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中、感染症対策や働き方改革の観点からも、ICT 技術を活用した行政手続の見直しにより一層必要であると感じています。行政手続のオンライン化を図ったり、内部文書の取扱いに関して公文書システムや電子決裁システムの導入を検討していきます。また、システムが導入されないまでも、保管処理のアーカイブ化等を図ることでペーパーレス化を推進していきます。

■その他の質問項目

- ・地域づくりの担い手について
- ・環境保全について

問 ICT を活用した鳥獣被害対策が出来ないか。また、加西市で活用された事例はあるか。

答 令和 2 年度より、捕獲おりに取付け可能な獣サイズ判別センサー式自動捕獲システムを 10 機導入しています。このシステムは温度センサーで動物を検知、距離センサーで動物の背丈を検知することが出来、目的のサイズで扉を閉めたり、餌付けモードでセンサー環境に慣れさせ、警戒心の薄れた獣をよりスムーズに短